

チャレンジ!

平成28年度
研究通信
研究部
H29.1.13 発行

公開研究協議会より

12月7日に行われた公開研究協議会。授業のみの参加も含めると58名の外部参加者がありました。参加者のアンケートを見ますと、「学部目標を日々の授業につなげる手順がよく分かった。」「ギャラリーワークは他の人たちの意見を聞くことができ大変意義があった。」などという御意見がたくさんありました。授業についても、「よく練られた授業だった。」「先生方のチームワークの良さが表れた授業だった。」など、嬉しい御意見がたくさんあり、チーム能代で授業づくりに取り組んできた成果の表れだと思います。各分科会の協議も深まり、地域活用の新たな視点を見出すことができたのではないかと思います。指導助言と合わせて、今後の授業づくりや次年度の計画に生かしていきましょう。

小学部分科会

指導助言 高田屋 陽子 指導主事

協議Ⅰ「自立と社会参加につながる魅力的で特色ある『地域と関わる学習』とは」

良かった点：学部合同の学習活動による児童同士の学び合い

教師間で児童生徒の成長や変容を共有

自分たちが楽しかったから、みんなにも楽しんでもらおうという単元の動機付け
ダイナミックで子どもの思いに沿った活動

学級の学習活動との関連付け 特定の団体・人との継続した関わり

今後へのアドバイス

繰り返しの活動の中でのステップアップ(活動場所の広がり 関わり方の広がり)

児童の地域と関わる目的意識の醸成(児童にとっての必然性、親密度)

中学部、高等部の学習活動との接続

指導助言

【授業について】

- ・事前研で課題となっていた「めあてと振り返り」が各グループで行われ、授業者の意図が明確であった。「こう育てたい」という教師の思いと子どもたちのやりたい事とが合致し、一時間一時間の積み重ねの中で育ちにつながっていく。
- ・子どもたちの意欲が伝わる授業だった。繰り返しの活動の中で見通しをもち、さらに自分なりに考えて工夫している姿も見られた。
- ・一人一人の活動が魅力的になり、今行っている活動が何につながっているのかが分かり易くなったことで意欲につながっていた。また、お互いにできることが一つになって形になっていたことも意欲につながる。みんなで作り上げていく過程が分かるように工夫されていた。
- ・できる状況づくりも大切だが、どうしたら児童がやろうとするかを考えることが大事。関わり合いをねらいにする際、関わる事を目的とするのではなく、活動の中で結果的に関わり合う力が育まれるようにしていくと良い。

【地域と関わる学習について】

- ・繰り返すことで、児童も地域の方も活動の目的が分かってくる。継続することで、地域の方々も子どもや学校に対する新しい気付きがある。新しい出会いも含めて、今後も継続してほしい。
- ・「さつまいも」を育て収穫するだけでなく、ゲームの題材としても扱われ、子どもたちにとって特別なものになった。農業技術センターの方々にとっても作物は大事なものであり、そのつながりも大変意味のあることである。



中学部分科会

指導助言 中村 素子 指導主事

協議Ⅰ「自立と社会参加につながる魅力的で特色ある『地域と関わる学習』とは」

良かった点：地域の取り上げ方が生徒の実態に合っていた

繰り返しの活動で生徒が見通しをもって取り組んでいた

新聞社の方（プロの方）からのアドバイス

今後へのアドバイス

本物の体験を取り入れる

関わった地域の方とのつながりを深めていく

→単発ではなく、複数回関わりを積み重ねる

→事後のアンケートで評価してもらうことで、交流相手が本校の事を考えるきっかけになる

→単年度で終わらず、今年度の学習や地域との関わりをベースにしながさらさらに広げていく

→地域へのフィードバックの場を単元計画の中に組み込む

指導助言

【研究について】

- ・資料のつながり、研究会のつながり、取組のつながり、職員間のつながりなど2年間の実践を通して軌道にのってきているのが、授業にも表れている。

【授業について】

- ・事前研で出た意見を生かし、授業の流れが改善され、生徒も自分の活動が分かって取り組んでいた。教師が変わることで生徒が変わることが見える授業だった。
- ・単元の目標が生徒の実態に応じて絞り込まれたことにより、学習活動も絞り込まれ、何を目指しているのかが明確になった。そのため、個別の目標も目標を達成する姿が見えるものとなっている。
- ・めあてとまとめを教師間だけでなく、生徒とどのように共有していくかが課題である。
→なぜみんなでやるのか、協力してやるのかの押さえ
→声を掛け合ってつくる新聞とそうでないものとのできあがりの差を考えるなど、生徒に実感として落とし込んでいく
- ・生徒から発信される言葉や気付きを拾い、まとめの時や次時のめあてに生かしていくことが必要。(例) S「おお すごい」 T「何がすごいのか？」 S「〇さんが写真をきれいに切っているから・・・」 T「きれいに切るとどうなの？」 S「見やすい新聞になる・・・」など
- ・生徒の変容の理由（何をしたら子どもが変わったのか）を考え、言葉や文字にして授業者間や学部間で共有していくことが、授業の評価にもつながる。

協議Ⅰ「自立と社会参加につながる魅力的で特色ある『地域と関わる学習』とは」

良かった点：前單元からのつながりで生徒の興味や必要感から始まった單元

単元のゴール設定が明確

ゲストティーチャーを活用し、繰り返し行ってステップアップ

3年間を見据えた單元設定（知る、活用、貢献が単年度の中でも組み込まれ、3年間でステップアップした形で組まれている点）

今後へのアドバイス

同じ団体等とつながりを継続していくことで、活動内容は変わっても、子どもたちの力や良さが認められ、子どもたちの価値を高めていくことにつながる

育てたい力や地域のニーズとの関連から、さまざまな地域との関わり方が期待できる（例）太鼓演奏だけではなく、祭りや能代のパンフレット作成 それと関連して観光協会や新聞社などの本物の活用など

校外で力を発揮する機会を増やす（時期の検討、本物の祭りとの関連）

活動内容の偏りがなく、他教科との関連を含めて計画していく

指導助言

【研究について】

- ・「なぜ地域と関わるのか」を各Tが自分の言葉で話せるようになってほしい。生徒にとって身に着けた力を他の人にも教えられるような、本物の力になるような活動を行ってほしい。また、教師にとっては、身に付けたことが他の教科・領域等でどう生かせるかを考え、生単の捉えや基礎・基本と合わせて理解を深めてほしい。

【授業について】

- ・事前研の時に比べて、生徒の主体的な活動が多く見られた。演奏も上達し、話し合いも話し方の質が上がった。（Kさん、Hさんの関わり、自分の意見をはっきり言うようになったSさんなど）教師の雰囲気や安心感をもち、TT間の役割の明確さがあつたからこその変容
- ・話し合いの中での教師の介入の仕方が良い。「この場合は？」など切り替えしの質問で生徒をナビゲートしていた。教師の関わりを参考に、生徒同士でもお互いを気遣う評価の仕方（「～もいいけど、こうしたらもっと良くなる」など）をしていた。
- ・めあてはまだ長い。生徒が時間いっぱい意識できるものと考えてほしい。
- ・実習でも、校内で力を付け、外の実習で生かすという流れができており、それが効果的であることは実証されている。生単でも繰り返すことで、社会につながる力を付けていく。地域と関わる学習を組織的に行うことにより、学年間のつながり、指導の形態間のつながりがあり、キャリア教育のお手本のような流れとなっている。

【地域と関わる学習について】

- ・魅力的で特色ある活動とは「たくさんの人に認知され評価される」「どこでもやられていない目新しい」「地域も学校も互いにメリットがある」活動と考える。ミュージカルはまさにそのもの。学校単独で行うことが難しければ、最初は既存のものと一緒にやるのも良い。教師がまずは活動の魅力が分かって、いかに売り込むかが大事。教師も生徒も準備段階からワクワクする活動を創造してほしい。マスコミが食らい付く活動かという点も活動の評価となる。
- ・学習指導要領の改正に向けて、社会に開かれた教育活動の実現について書かれている。能代の実践は当てはまっているので、これからも教育課程の実施、評価、改善を続けていってほしい。また、主体的、探求的な学びについても理解を深めてほしい。毎回の授業の中で「なぜ？」と「分かった！」を生徒が実感し、その「分かった」に対し教師が揺さぶりをかけ、深めていく。話し合い活動をただすればいいという訳ではない。

寄宿舎分科会

指導助言 北島 英樹 指導主事

協議「合意形成に基づいた合理的配慮の下、子どもの思いや願いに寄り添う生活指導とは」

- ・指導員から見た子どもの姿と、子ども自身が思う自分の姿を付き合わせる作業が良い。
- ・自分の生活をプロデュースする力が育まれるよう、将来の自分の姿に具体的イメージがもてるようなアプローチをすることが大事。
- ・子どもたちが思いや願いを自ら話すことができるような安心感をもてる雰囲気が必要。
- ・失敗しても大丈夫ということを伝える。頑張ってきた過程を認めていくことが大事。
- ・子どもの願いと保護者の願い、共感と信頼関係の中で双方の声を引き出し、目指すところの摺り合わせを行っていく
- ・寄宿舎生活を生かしてロールモデルとなる先輩の姿を目指すことができるようにする。

指導助言

【研究について】

- ・よく考えられ、まとまった資料である。事前アンケートやポスターによる事例発表、ビデオ等での分かりやすい説明、ギャラリートークなど、参加者同士で主体的に学び合える工夫が見られ、大変良かった。
- ・先生方が情報を共有して、生徒の成長をしっかりとつぶさに見取っているからこそできる、実践、事例発表だった。成果を共有できる事例発表が良かった。
- ・本人の必要感に結び付いた事例であり、本人が主体的に取り組むといった研究テーマに合致している。

【合意形成、合理的配慮について】

- ・合理的配慮、合意形成に至るまでは話し合いが必要。それを支えるために、個別の指導計画と整合性を図り、個別の生活指導計画書を工夫しながら作成している。生徒の良い面をみんなと共有し、合意形成にいたっているのが良い。
- ・国立特別支援教育総合研究所、H26、27年度の成果報告書「ばれっと」重度重複障害のある子どもの実態把握、教育目標、内容の設定及び評価等に資する情報パッケージから、個別の支援計画を立てる際の7項目を紹介する。
 - ①子どもの生活の質の向上を目指したもの：家庭や地域での生活の質の向上と社会参加を見据えた目標設定。
 - ②自己決定の力を育む。
 - ③子どものもつ能力や強み、その力を発揮するのに必要な支援を考える。
 - ④子どもと家族の現在の生活と将来の生活を視野に入れる。
 - ⑤子どもと家族が望む未来の実現のための目標を組む。
 - ⑥様々な専門職が連携する。
 - ⑦子どもや家族が中心となる計画である。
- ・本人が主体、本人が必要感や夢をもって、そのために頑張れるように、今後も実践、研究を行ってほしい。



全体講評と指導助言

高田屋 陽子 指導主事

- ・ 文部科学省実践研究の趣旨として、障害の重度重複化、多様化等、多様な児童生徒への支援を適切に行うこと、特別支援学校間・外部機関との連携を図ること、またそれらを組織的に計画し実践していくことが、全国の特別支援学校での課題となっていることが背景にある。
- ・ 能代支援学校では、「拓く」の教育目標のとおり、学校の特色として地域とのつながりを生かした教育活動を展開している。一人一人の教育的ニーズに対応した教育課程を編成するため、また地域とのつながりを生かした教育課程を編成するため、日々の授業と地域と関わる学習との関連を探る仕組みづくりを主題として研究を進めてもらった。
- ・ 教育課程の編成について、学校目標からつながる実際の授業づくりについて、教師間で検討したこと、学校と地域が互いに深め合うことのできるような教育活動を進めたこと、事前研究会で出された改善案について、教師間、学部間で共有し、授業改善について検討を進めたことなどが成果につながった。
- ・ 今年度の実践を通し、教育課程編成の仕組みが、分かりやすく取り組みやすいものであったか、評価して継続してほしい。
- ・ 教育課程編成の流れについて、確認が主な作業になる部分、検討・見直しが必要な部分、新しく作っていく部分について整理が必要である。



地域と関わる学習と日々の授業を、教育課程編成の仕組みに沿って関連付けて実施してきた2年間の研究でした。この仕組みの中で授業づくりを行ってきたことで、地域の中で自分の力を十分に発揮しようと、日々の授業や日々の生活の中で、意欲をもって頑張る子ども、自主的、自発的に活動する子ども、主体的に活動する子どもの姿がたくさん見られるようになりました。私たちには、そんな子どもたちの姿を地域社会に伝え、子どもたちの存在価値を高めていく使命があることを、改めて気付かされた研究であったと思います。

今後もこの教育課程編成の仕組みを生かし、さらに理解を深めていきながら、授業づくりを行っていきたいと考えます。

